

カーコンカーリース

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み8,000円(※)に含まれています。さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。 ※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

「私は、一日266円で

(※)

車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません



※9年カーリースの場合
ボーナス月加算あり

カーコンカーリースの
お申込みお問い合わせは **0120-29-5353** <受付時間>8:00~22:00
カーコンカーリース 検索 〒108-0075 東京都港区港南2-11-19大滝ビル

電気自動車について

私の持論でもあるが、地球温暖化現象に伴うCO₂の問題は、そう簡単に結論が出るものではないし、また、さまざまな条件の異なる世界各国がすんなり協調できるとも思えない。地球規模でのCO₂の排出においても、車と排気ガスは全体のわずか2割にも届かないし、むしろ、工場や家庭での排出ガスの量などを考えると、電気自動車(EV)があつという間に世界を席巻することもない。一回あたりの充電に対する走行距離も今後、飛躍的に進化するであろうが、各メーカーによって、充電の方法や蓄電するためのシステムも異なるからだ。

日本においては、特に、ガソリン税などが政府の財源としてもまだまだ重要だし、車分野における労働力市場は10万人とも20万人ともいわれ、大きな産業となっている。

カーコンビニ倶楽部も現在の集客市場を考えてみても、簡単な数字であるが、1日全店舗で数千人のお客様を招き入れていると仮定すると、年間、200万人近いお客様を受け入れていることになる。したがって、環境問題の中の位置付けも、業界においても大きな影響力がある。よって、特に電気自動車の動向については、慎重にその方向性を見極めながら静観しようと思っている。

先日、ヤマダホールディングスが新築住宅と電気自動車のセット販売を拡大すると発表した。この4月から家電と家具両方を揃える新型店で実際に電気自動車を展示して個人向け販売を始めたそうだ。

「YAMADAスマートハウス」というのは、太陽光で自給自足できる電気を作り、使わない電気は蓄電もできる。またその電気を電気自動車でも使うことができる。よく見かける住宅展示場での販売とは異なり、このように量販店が直接消費者とつながり、品定めをもらいながら、EV販売をするのも今後の底上げにもなるだろう。



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:パル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Do Financialサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役退任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任